

ビデオ教材『外国人のための日本の言語景観—初級・生活篇—』 の制作とシナリオの公開

磯野 英治・西郡 仁朗

1. はじめに

本報告の目的は、日本に住む外国人生活者、および日本国内外の初級の日本語学習者に情報を提供することを目的とし、言語景観を素材として制作したビデオ教材『外国人のための日本の言語景観—初級・生活篇—』について、制作の背景と意図、ビデオ教材(オンライン映像教材)の公開とそのシナリオまでの情報を共有することである。言語景観研究の広がりに伴って、言語研究や地域・社会研究だけではなく、言語景観が日本語教育・学習のための素材として有用であることが指摘され、授業実践についても論じられて久しい(磯野2011, 2015, 2019、鎌田2014、西郡・黒田ほか2016、磯野・西郡2017)。また、関連の上級レベルの教材が映像教材や書籍として公開されているだけではなく(西郡・磯野2014、磯野・西郡2019、磯野2020)、日本語教育や多文化共生の観点から「外国人にはどう見えるか(本田・岩田ほか2017)」「やさしい日本語(庵・岩田ほか2019)」「多言語サービス(山川2020)」「日本の言語環境(ロング・斎藤2022)」といった意義のある検討や提案がなされるなど広がりを見せている。

これに対して、本ビデオ教材の位置づけは提案や改善案ではなく、既存の言語景観について外国人、とりわけ日本に定住する日本語能力の高くない人たちにとって生活する上で「分かりにくい点」、および「知っておくべき点」を体系的にまとめている点で、そのアプローチが異なる初級教材である。街を見渡せば一目瞭然のように、多言語化の一方で街中には日本語の単独表記も多く、都市部から離れると公共表示でさえも日本語のみ、あるいは日本語と英語の二言語表記といった状況である。加えて、「多言語サービス」や「やさしい日本語」への変更、改善は意義があり、時代とともに変わっていくだろうが、日本全国、全てのニーズに迅速に応えるのには限界があり、時間と労力、費用がかかると考えられる。本ビデオ教材の新たな観点は、あくまでも現存する言語景観の中で生活する初級レベルの外国人のために必要な点をまとめ、ビデオ教材として制作・公開しているものであり、既存の教材にはない観点と内容で構成している¹。そして、そのシナリオの全文公開と共有は、実際にビデオ教材を使用する学習者が活用しやすいようにする狙いがある。ナレーションの音声や字幕はその性質上、瞬時に消えてしまうという難点があるが、本報告でシナリオを文字として視覚的に提示することで、日本語の学習途上にある視聴者の理解の助けとしたい。

¹ 本ビデオ教材を制作するために行った基礎的調査や理論的枠組みの検討は、磯野(2021)を参照のこと。

2. ビデオ教材の構成と内容

ここではビデオ教材『外国人のための日本の言語景観－初級・生活篇－』について、その構成と内容、制作の背景と意図、公開した情報を示す。

表1 ビデオ教材の構成と内容

パート	コンテンツ
1. オープニング	ビデオ教材の目的の提示
2. 分かりにくい言語景観の分類と具体例	a. ピクトグラム・記号 b. 使用文字の多様性 c. 語彙のバリエーション d. 読み順 e. 禁止や注意喚起の表現
3. エンディング	日本でのより良い生活のために

現存する言語景観の中で生活する初級レベルの外国人のために必要な視点とは、ビデオ教材のオープニングでも解説している通り「日本で生活する上でどのような言語景観に注目して生活をしていけばよいのかを、普段の日本語学習とは異なる視点」から理解することである。このため、その構成と内容は、一見簡単そうに見えても複雑なもの、日本文化が含まれていてそもそも意図の読みにくいものなど、日本・日本語固有の特徴に関して体系的にまとめている。本ビデオ教材は、以下のような仕様で現在公開しており、世界中から誰でもアクセスと閲覧が可能な状態になっている。

表2 ビデオ教材の公開方法

タイトル	外国人のための日本の言語景観－初級・生活篇－
使用言語	映像：日本語＋英語字幕付き 多言語翻訳版：ポルトガル語・スペイン語 (Español)・ベトナム語・ネパール語・インドネシア語・中国語 (簡体字)・韓国語・中国語 (繁体字)
出典・公開時期	磯野英治・西郡仁朗 監修、2023年11月
公開方法	You Tube opinion.nucba.ac.jp/~isono/isonokaken2020-2024.html

図 1 公開したビデオ教材



実際の映像について、音声とテロップを含む全体の使用言語は日本語、そしてこれらに対応する英語の字幕が入っている仕様となっている。そして、これとは別にビデオ教材が視聴者に理解できるようPDFの形でポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、中国語（簡体字）、韓国語、中国語（繁体字）の翻訳資料を付属している。これは、主に労働力として日本社会に住む外国人定住者に対する配慮である²。

3. 『外国人のための日本の言語景観—初級・生活篇—』のシナリオ

ここでは、ビデオ教材『外国人のための日本の言語景観—初級・生活篇—』のシナリオを全文公開・共有する。本ビデオ教材は、その目的を提示した導入としてのパート1（オープニング）、授業や教科学習では学ばない日本・日本語固有の特徴に関して、分かりにくい言語景観の例を体系的にまとめているパート2（分かりにくい言語景観の分類と具体例）、まとめとして日本でのより良い生活のための提案を示したパート3（エンディング）からなっている。本ビデオ教材を構成する3つのパートの全シナリオは次の通りである。

1 オープニング
日本で生活している外国人の皆さん。そして、外国で日本語を勉強している皆さん。皆さんのまわりには、看板や掲示物、ポスターやチラシ、ステッカーがありま

² 多言語版 PDF に関して、言語の選定は愛知県など外国人労働者の多いエリアの統計を参考にした。

すね。これらに書かれている文字言語を言語景観、Linguistic Landscape と言います。言語景観は皆さんが日本で生活する上で、必要な情報が書かれている重要なものです。またそれらの多くは日本語で書かれています。日本で生活していて分かりにくい言語景観には何があるのでしょうか。難しい漢字や文法、言い回しや方言などが思い浮かぶかもしれません。しかし、これらは日本で生活し、日本語を勉強する中で慣れてくるかもしれません。一方で、身近な言語景観の中には一見簡単そうに見えても複雑なもの、日本文化が含まれていてそもそも意図の読みにくいものなども存在します。これから言語景観を通して、どのような日本・日本語固有の特徴があるのか、知っておいた方が良い点を体系的に見ていきましょう。

2 分かりにくい言語景観の分類と具体例

(1) ピクトグラム・記号

街中の言語景観にはよく絵が使われています。何らかの情報を提供したり、注意を示すために表示される絵文字や絵単語をピクトグラムと言います。ピクトグラムは現地の言語が分からない人に伝わるのが原則ですが、中には文化的知識を必要とする例もあります。例えば、こちらには「なまず」の絵が書かれています。日本ではなまずが地震を引き起こす、あるいは地震を予知するなど、様々な説と言い伝えがあり、なまずは地震と密接に関連することからこのような絵が描かれている訳です。この言語景観の場合、なまずの絵を書くことによって、この道路が地震などの災害時に緊急車両用として活用されることを表しているのですが、もしピクトグラムが強調され文字が小さければ、外国人にとっては何を示している看板が分かりにくいのではないかと考えられます。

次に、こちらの看板はどうでしょうか。河童のピクトグラムに船橋市とだけ書かれていますね。日本国内のピクトグラムには、このように文化的知識を必要とし、外国人には理解しにくいものがあります。河童は幼児絵本や児童書でも物語が描かれており、日本人にとっては身近な存在、つまり日本文化なんです。そして、この河童を水辺に描くことによって「河童が住んでいるかもしれないこの池・川・湖・防火水槽などに近づくと怖いぞ、いたずらされるかもしれないぞ、引きずり込まれるかもしれないぞ、だから近づかないで」と、特に子供に伝えたい例です。そして、このピクトグラムそのものや、河童が水辺に描かれている理由は、その背景が共有できないので外国人には分かりにくい例と言えるでしょう。

それではこのマークはどうでしょうか。日本人には見慣れた温泉マークですが、外国人が湯気を料理の湯気と考えてしまい、温かい料理を出すところなどと間違える例が従来から有名です。その他にも高速道路にある「タヌキ」「イノシシ」など日本に多い動物のピクトグラムも、それを見た外国人の国にいなければ分かりにくい例といえるでしょう。イノシシの場合は、公園や歩道、大学のキャンパスなど、ど

<p>こでも見かけるものであり、遭遇した場合に「襲ってくる危険性」もあることから掲示されている言語景観です。その意味では、「飛び出してくる可能性」から、主に車道の公共表示として見られる言語景観である「タヌキ」、「キツネ」「トリ」「サル」などとは、意味合いが異なると言えますね。このように、一見日本国内だと当たり前のように感じるピクトグラムや記号には、海外から見ると分かりにくい例が多く見られそうです。</p>
<p style="text-align: center;">2 分かりにくい言語景観の分類と具体例 (2) 使用文字の多様性</p>
<p>次に、使用文字の多様性について見ていきましょう。日本語はひらがな、カタカナ、漢字を使い分ける言語です。しかし、こちらのラーメン店の言語景観を見てください。「らあめん」、「らあ麺」と書いてありますね。ラーメン店の言語景観にはバリエーションがあり、一般的な表記である「ラーメン」のほか、「ラ～メン」「らーめん」「ら～めん」「らあめん」「ら一麺」「らあ麺」「拉麺」など様々です。このような飲食店に関する同じものを指す言語景観の語彙のバリエーションは「焼き鳥」「焼とり」「やき鳥」「やきとり」、「レストラン」「れすとらん」など数多くあります。また、飲食店に限らず、こちらのように「車・くるま」ではなく、「クルマ」とあえてカナカナ表記するような事例は、例えば「眼鏡」「めがね」「メガネ」など多く存在します。</p> <p>このように通常漢字で表現する言葉をひらがなやカタカナに、あるいはカタカナで表現する言葉をひらがなや漢字で表記し、一般的な書き方をあえてしないことによって、近づきやすさや雰囲気作り、目につきやすさを狙う事例は名詞を中心に、イ形容詞、ナ形容詞、動詞、副詞などがありますが、外国人の皆さんが学んだ通常表記とは異なるため、一見して分かりにくい表記になると言えるでしょう。</p>
<p style="text-align: center;">2 分かりにくい言語景観の分類と具体例 (3) 語彙のバリエーション</p>
<p>ここでは日本に住む外国人の皆さんにとって身近な言語景観を例に、語彙のバリエーションについて見ていきましょう。日本国内の言語景観にはケガや病気の際に行く病院や、様々な手続きで行く銀行など、日常生活の中で利用するものの中に様々なバリエーション、言い換えが存在します。</p> <p>例えば、こちらにはそれぞれ「うかい医院」「日進おりど病院」「いこま内科クリニック」とあり、病気やケガの際に行くことになる場所に関して表現にバリエーションがあります。これらは入院ベッド20床以上が「病院」であり、そのほか、診療</p>

所に分類される医療機関は「～クリニック」や「～医院」、「～診療所」、「～科」と自由に表記を選べるようです。しかしながら、これらの表現を併せて一般名詞としての「病院」であり、日本語を学習する時に初級の初期で出てくることから、外国人の皆さんはこのバリエーションをおさえておく必要があるでしょう。同じような例として、こちらはどうか。ATMの利用案内にそれぞれ「銀行」「信用金庫」「ろうきん」「バンク」のように語彙のバリエーションがあり、その全てを「現金の入出金などの手続きができるもの」と捉える必要がありますね。

また、働く現場でもこのような事例が観察できます。こちらには、パートタイム労働者に関する求人が「パートさん」「アルバイトさん」と分けて表現されています。労働条件・名称として法律上の区別がない二つの表現ですが、学生や若年層、フリーターを対象としているのがアルバイト、配偶者や子供が出かけている平日の昼間に働く女性の主婦、あるいは男性の主夫を対象としているのがパート、といった世間の一般的な呼称の違いがあることを理解する必要があります。

こうした言語景観は、日々生活する上で必要な飲食にも関わってきます。日本人に身近な食べ物である「おにぎり」は、同様に日本語の授業でも初級の段階から扱われることの多い単語ですが、この全国チェーンのコンビニエンスストアののぼりには「おむすび」とあります。仮にピクトグラムがなければ「おむすび」が何なのか分からないという意味では、外国人にとって分かりにくい語彙のバリエーションと言えるでしょう。

2 分かりにくい言語景観の分類と具体例
(4) 読み順

次に日本語のレベルとは関係なく、日本で生活する上で知っておくべき言語景観の諸特徴について見ていきましょう。こちらをご覧ください。どこにでもある車のコインパーキングの言語景観ですが、四角く囲われたボックスの4文字に注目してみましよう。通常、外国人の皆さんがこのような文字列を学習することはないため、語彙の難易度はさておき、「最大料金」「基本料金」「入庫方法」に関して、それぞれボックスで囲まれた日本語を「上から、左から右に読む」という読み順のルールを理解する必要があります。

同様に、こちらは昔の日本を想起させることを狙って、あえて右から読むように横書きし、ノスタルジックな雰囲気を出している定食屋の言語景観です。上段には「堂食ダモ」、下段には「房厨京東」とあり、さらに縦書きを模して四角く囲われたボックスの4文字（東京厨房）も「右から、上から下に読む」という仕様になっています。

外国人の皆さんが普段から見慣れている「横書きで左から右」という日本語の書き方とは異なり、文字が読めても一見して文の理解にはすぐに届かない例は、こ

<p>のように数多くあります。</p>
<p>2 分かりにくい言語景観の分類と具体例 (5) 禁止や注意喚起の表現</p>
<p>日本語のレベルとは関係なく、日本で生活する上で知っておくべき言語景観として、禁止や注意喚起に関する言語景観が挙げられます。街を歩けば分かるように、私たちの身の回りにはこのような表現が溢れており、目にしない日はありません。例えば、こちらの言語景観は、全て禁止や注意に関する言語景観であり、それぞれ「禁止」「注意」「キケン」「遠慮」がキーワードになっていますね。これら4つのキーワードは、いずれも単独表記や文頭に大きく表示、あるいは文中に書かれており、初級レベルの非母語話者にとっても生活の中でまず「やってはいけないこと」や「注意すること」が書かれていると気づかなければならない第一歩です。仮にその内容が完全に理解できなくても、まずそのことに気づけば、その場で注意を払ったり、生活の中での意識向上につながり、内容をその場で誰かに聞いたり、改めて自分で確認するためのきっかけにもなるでしょう。特にこれらのキーワードを覚えておくメリットは、ピクトグラムが併記されていない言語景観を目にするような場面で発揮されます。</p>
<p>3 エンディング</p>
<p>いかがでしたか。皆さんが日本で生活する上でどのような言語景観に注目して生活をしていけばよいのかを、普段の日本語学習とは異なる視点から見てきました。日本に住んでいる外国人の皆さん、海外で日本語を勉強している皆さんは教科書には載っていない様々な特徴を知るきっかけとなり、さらに日本を身近に感じられるようになったのではないのでしょうか。</p> <p>国際化の進む現在、日本社会はどのような変貌を遂げていくのでしょうか。日本語を勉強し、日本に住む中で世界の中の日本を感じられるはずです。</p>

4. おわりに

本稿では制作したビデオ教材『外国人のための日本の言語景観—初級・生活篇—』のシナリオについて、制作の背景、構成と内容とともに報告した。これまでに、日本に住む外国人生活者、および日本国内外の初級の日本語学習者に情報を提供することを目的として、既存の言語景観について生活する上で「分かりにくい点」、および「知っておくべき点」を体系的にまとめている視聴覚教材はない。また、これまでの初級教材にはない観点と内容で構成し、YouTube に公開することによって、世界中からの

自由なアクセスを可能にしている。本稿は本動画の「概要欄」にリンクすることで、より充実した学習環境を整える予定であり、日本に住む外国人定住者、世界で日本語を学ぶ初級学習者にとって本報告が役に立つことを願っている。今後は地域の外国人支援機関や日本語ボランティア教室への情報提供、初級日本語クラスでの授業実践などを行っていく予定である³。

参考文献

- 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美(2019)『〈やさしい日本語〉と多文化共生』、ココ出版
- 磯野英治(2011)「韓国における日本語の言語景観—各都市の現状分析と日本語教育への応用可能性について—」『世界の言語景観 日本の言語景観—景色のなかのことば—』、内山純蔵 監修・中井精一・ダニエル ロング 編、桂書房、pp.74-95.
- (2015)「身近にある言語景観を素材とした多文化クラスにおける教育実践」『日本語研究』第35号、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会、pp.193-200.
- (2019)「日本語教育に活用可能な言語景観と教育実践—理論と方法—」、中井精一・ダニエル・ロング 監修、李舜炯 編 『都市空間を編む言語景観』、中文出版社(韓国大邱)、pp.183-206.
- (2021)「多文化社会への支援に資する言語景観を活用した初級日本語教育教材開発のための基礎的調査」『日本語研究』第41号、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会、pp.57-68
- (2020)『言語景観から学ぶ日本語』、大修館書店
- 磯野英治・西郡仁朗(2017)「ビデオ教材『東京の言語景観—現在・未来—』の公開と教育実践」『日本語教育』166号、日本語教育学会、pp.108-114.
- 監修(2019)ビデオ教材『言語景観で学ぶ日本語』、2017年度~2019年度科学研究費若手研究(B)研究課題番号17K13490「言語景観を教材とした社会文化的理解を目指す内容重視型日本語教育の研究」(研究代表者:磯野英治)(https://youtu.be/qB0-eSC_yUQ)
- 鎌田美千子(2014)「言語景観に着目した漢字テキスト作成の実践と課題—PBLの手法に基づいて—」『日本語教育方法研究会誌』Vol.21.No2、日本語教育方法研究会、pp.50-51.
- 西郡仁朗・磯野英治 監修(2014)ビデオ教材『東京の言語景観—現在・未来—』、東京都アジア人材育成基金(https://www.youtube.com/watch?v=NHV338g_NB0).
- 西郡仁朗・黒田史彦・福田寺紫陽・市川紘子(2016)「東京の言語景観と留学生から見

³ 愛知県日進市に所在する国際交流の推進や外国人への支援を行っている日進市国際交流協会などに、本ビデオ教材の情報提供を既に開始しており、当該協会HPから紹介されている(<https://www.me.ccnw.ne.jp/nia-nisshin/>)。

「多言語対応状況—2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて—」『人文学報』第512-7号、首都大学東京、pp.95-111.

本田弘之・岩田一成・倉林秀男(2017)『街の公共サインを点検する—外国人にはどう見えるか—』、大修館書店

山川和彦 編(2020)『観光言語を考える』、くろしお出版

ロング ダニエル・斎藤敬太(2022)『言語景観から考える日本の言語環境—方言・多言語・日本語教育—』、春風社

付記

本研究は、2020年度～2024年度科学研究費(若手研究)研究課題番号20K13093「言語景観を活用した多文化社会への支援に資する内容重視型初級日本語教育教材の開発」(研究代表者:磯野英治)の成果の一部である。

(いその ひではる・名古屋商科大学 国際学部)

(にしごおり じろう・東京都立大学 プレミアム・カレッジ)